

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年7月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690400058
法人名	医療法人 厚生会
事業所名	グループホーム 宝寿庵
所在地	鹿児島県枕崎市寿町26番地1 (電話) 0993-72-0084
自己評価作成日	令和3年5月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた枕崎の地で、その人らしく普通に生活し、「今」を楽しみ、笑顔で暮らすことができるように、目と耳と心を最大限に活用した介護サービスの提供を、開業以来の理念に掲げ、利用者様第一主義をモットーに、日々介護・支援の質の向上に努めています。

利用者様の立場に立ち、利用者様のペースでゆっくり一緒に行動し、利用者様の尊厳を尊重し、気持ちに寄り添います。

当事業所では、利用者様に季節感を感じていただくことを目的として、季節に合ったイベントを開催しています。イベントにはご家族を招待し、希薄になりがちな利用者様とご家族の関わりを持つ機会を提供しています。また、各利用者様に担当職員を配置し、ケアマネージャーと共に介護計画の進捗状況を見守っています。2ヶ月ごとに各利用者様の担当職員が、生活の様子をまとめ、ご家族に書面にて報告しています。各利用者様とご家族の関わりは勿論のこと、ご家族と職員の間わりも大切にしています。また地域との関わりの中で、同地域の2つのグループホームと交流を持ち、お互いに交流会を行っております。利用者様同士がお知り合いの方がいらっしゃってなじみの関係を保っております。地域とのつながりについては子供会のラジオ体操をホーム内で行っていただいております。

医療面について、平成30年度から訪問看護ステーションとの業務委託を開始し、利用者様の健康状態の更なる維持向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所は古民家風の和風の建物で、菜園畑やイベントができる広場がある。敷地を出ると散歩する小道があり利用者と地域住民との挨拶を交わす交流の場ともなっており、日光浴や外気浴を行っている。
- ・利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について、母体法人での研修会やホームで勉強会を実施し、介護支援に活かしている。
- ・協力医療機関や訪問看護ステーションと連携し、24時間医療連携体制が整っている。
- ・運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。活動報告やコロナ感染防止の為の対策等を話し合い、面会についての要望でリモート面会で対応している。
- ・管理者や職員で、宝寿庵便りを作成し、ホームの近況や利用者の状況・年間行事等、家族に知らせて安心につなげている。
- ・管理者は、職員の資格取得を奨励し資質向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念とケアの方針を介護の継続的な目標として、利用者第一を心がけている。理念とケアの方針はホール内の目に付く所に掲出し、就業時に各職員が確認し、朝の申し送り時にケアの方針を読み上げ、各職員が常に意識を持ち、日々実践している。職員会議等で普段のケアの振り返りを行い、つい業務に集中してしまうことがあるので、職員同士で声かけをしながら、家庭的な環境づくり・利用者中心のケアの実践に取り組んでいる。声かけが不足している場面があるので、職員間で見直しを行っている。</p>	<p>理念は玄関に掲示し、訪問者にも目につくようにしている。毎朝申し送り時に読み上げ、重要事項説明書やパンフレットにも記載している。職員会議で話し合いを行い、理念を振り返り、共有し実践につなげている。法人内の研修でも対応している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、現在は地域との交流を一時中止している状態である。令和元年度・2年度の宝寿庵便りは発行できた。</p>	<p>地域の奉仕作業に参加したり、宝寿庵便りを回覧板で配布している。コロナ感染防止の為、ボランティアの参加や琴・ハーモニカ演奏等を行っていたが、現在は自粛している。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、現在は地域との交流を一時中止している状態である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>偶数月に開催しており、事業所の現状報告、災害対策、ケアに関する議題等をこちらから積極的に投げかけ、活発な議事を心がけている。感染症予防の為、現在は最少人数の出席者（法人代表、家族代表、行政から各1名）で行なっている。</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月毎に少人数で開催している。事業所及び利用者の状況報告・外部評価結果報告・コロナワクチン接種について等を話し合っている。コロナ禍で面会に対する質問が多く、玄関先で距離を取りながらリモート面会を行い、電話や手紙でも対応している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>毎月、市福祉課と地域包括支援センターの担当者に、ホームの運営状況と待機者の報告を行っている。運営上の様々なことについて相談や指導を受け、連携を深めている。</p>	<p>市の窓口には毎月書類提出や報告・相談等、出向き連携を取っている。コロナ対策等の指導を受け活用している。研修も職員の希望を募り、積極的に参加し、サービスに活かしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止の指針を作成し、管理者を中心に委員会を行っている。身体拘束にならないようにベッドの位置や車イスの位置などにも気を配っている。スピーチロックに関しては職員同士で気づいたときに声を掛け合っている。現在まで身体拘束を行った事例はない。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に3ヶ月毎に勉強会を実施している。研修も定期的に行っている。拘束の事例を取り上げ、スピーチロックにも気配りして拘束しないケアに努めている。車いすから突然の立ち上がりや移動等で注意深い見守りを行い、転倒防止に努めている。職員の一方面的な声掛けや誘導はせず、利用者の立場にたった対応に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の勉強会に参加したり、職員会議で事例を用いて話し合っ、意識の向上に努めている。利用者様が何度も同じことを聞いてこられたり、同じことをされても、その都度対応することに心がけている。入浴時や更衣時に身体観察をさりげなく十分に行い、異変・変調が見られたらその都度職員間で共有し、防止策を検討し対応しているが、その原因が不明で、予測を含めて予防策を講じている。(足カバー・車イスカバーなど)</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内研修を受講し、権利擁護や成年後見制度について常に理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用契約業務は管理者・総務が協同で担当し、利用契約書をはじめ、必要書類を説明し、十分理解し、納得してもらった上で、契約している。重要事項説明書の改定に際しては、説明及び理解の上、同意書も作成している。入居前に十分な時間を頂き、契約を行い、契約成立後に入居してもらうようにしている。その後の質問等にも誠意を持って対応している。感染症対策として、遠方のご家族とは電話のみでの契約も行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には2か月ごとに利用者様の日常の生活の様子を報告書として郵送している。感染症予防として運営推進会議には代表者1名のみ参加を依頼し、意見・要望を聞くようにしている。外部に苦情・相談窓口として地域の方を3名依頼している。	利用者からは毎日の支援の中で要望等を聞くようにしている。食べたい物の希望があるので、毎日の食事や誕生日食に反映している。家族からは、電話や手紙・メールで思いを聞いている。面会の要望が多く、コロナ感染防止の為、対策を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時にカンファレンスを行い、日々のケアの振り返りを行っている。職員会議では全利用者の話し合いを行い、職員の意見を反映している。	申し送りや職員会議時に利用者の状況や業務に必要なことを話し合っている。夜間帯の業務が多いため、業務の見直しを要望する意見もあり、改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務時間が偏らず、バランスのいい勤務体系になるようにしている。業務内容の変更や見直しについては、職員会議等で全職員の意見を聞き、合意を基本としている。認知症状から終日歩き回りがいらっしやって、休憩が取りにくい現状があり、休憩スペースの確保が継続課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修には参加しているが、鹿児島市内の研修には、感染症対策のため、重要な研修はリモート形式でのみ受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームとの交流会は感染症予防のため、一時中止している。運営推進会議への参加も中止している。訪問看護ステーションとの業務提携は継続して行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在、ご家族・訪問者の面会は原則禁止している。しかし窓越し面会やソーシャルディスタンスを十分取った面会は行なっている。リモート面会の準備も進めている。その際利用者様の人となりを聞かせていただいているが、以前ほどの情報量は確保できていない状態である。入居前に利用されていたサービスなどは前事業所から情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や電話の際にご家族の思いや要望を十分聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で、申込者がホームでの生活をきちんと理解してもらうようにしている。入居後には、入居前の環境を考慮し、写真等を用いて居室を自宅の雰囲気似せて、リロケーションダメージを極力受けないように努めている。利用者様個人に合わせたサービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に無理なく、生活してもらえるように本人のペースを大切にしている。食事で使用するおしぼり巻きや洗濯物たたみ、入浴準備など、それぞれの利用者様に合った出来ることを手伝ってもらっている。簡単な調理（焼きそば作り）や花の手入れなどは、レクリエーションの一環として職員と一緒にしてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況として、他科病院受診はご家族に付き添いをお願いしている。衣替え、外出泊・外食などは中止して、職員で行なっている。行事は利用者職員のみで行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のドライブには出かけて、車内から枕崎市内を眺めてもらっている。理容は訪問理容を行なっている。電話や手紙でのやりとりは継続して行なえている。	家族や友人の面会がある。医療機関受診時にドライブや買い物・墓参り等にも出かけている。理容・美容は訪問で対応しているが、馴染みの美容室に行くこともある。年賀や暑中見舞い状は、馴染みの関係が途切れないように一緒に作成している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴等があり、職員が利用者様の間に入り、利用者様同士の会話の仲介になっている。利用者同士のいざこざはさりげなく解決できるように気を付けている。レクリエーション時は、なるべく利用者様全員が参加できるようにしている。参加されない方は無理強いせず個別レクで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>医療機関への入院や他施設への転居が主な契約終了の理由である。系列の医療機関や介護施設を紹介し、その後も先方と連携を取り、状況の把握に努めている。入院中は電話でのやりとりのみ行っている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常的に利用者様とご家族に思いや希望の把握に努め、生活面についてなるべくご本人の希望に沿えるように支援している。希望の食事メニューはイベント時や誕生日会の時に提供している。</p>	<p>リビングでくつろいでいる時にコミュニケーションをはかり健康状態・言動・表情から思いを把握している。意思表示が困難な場合は時間をかけながら、寄り添って仕草や様子を見ながら把握し支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人やご家族に入居前の話聞き、また他施設利用があった場合は、先方の担当者へも聞き取りを行っている。ケアマネ・看護職員が担当し、既往歴と現状の確認も行っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>バイタル、排泄チェック、食事摂取量のチェックによる健康状態の把握を行っている。また、言動や表情に注意を払い、心身の状況把握にも努めている。入浴時に全身の状態観察をさりげなく行っている。訪問看護と連携し、健康状態の維持向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の更新時には、職員から意見を聞き、介護計画に反映している。計画作成後は、全職員がその内容を確認し、情報を共有した上で、介護・支援に取り組んでいる。また利用者様に変化が生じた場合は、家族と相談し、介護計画を柔軟に変更している。モニタリングは2ヶ月に1回行っている。</p>	<p>利用者及び家族・職員で話し合い介護計画を作成している。モニタリングは2ヶ月毎に見直し、利用者の状況の変化時は、医師や家族に相談し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のケア記録は、介護計画に沿ったものになるように計画書を確認しながら記入するようにしている。利用者様の小さな変化やご本人の言葉などを細かく記録するように心がけている。職員間で記録について話し合いを持っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院受診・美容室利用などは継続して行っている。ドライブ楽しみが持てるようにしている。農作業をされる方には職員が付き添って行なえている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>紙芝居の読み聞かせ・琴・ハーモニカ演奏のボランティアは感染症予防のため、一時中断している。地域との交流も出来ていない状態である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に事業所の協力医療機関へのかかりつけ医の変更を勧めている。ケアマネ・看護職員が受診に立会い、医師と連携を取っている。同行後は、各職員に情報が確実に申し送られるようにしている。訪問看護師と契約し週1回健康測定と管理を依頼している。24時間医療体制も確保している。協力医療機関以外の他科受診はご家族の協力をお願いしている。</p>	<p>事業所の協力医療機関がかかりつけ医である。医療機関の受診は、職員が同行し、結果を家族に報告している。他科受診は、家族に依頼している。訪問看護師が週1回健康管理している。24時間医療連携体制も確保し、安心した適切な医療を受ける支援をしている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人の「訪問看護ステーション立神」に業務委託し、ケアマネ・看護職員と連携して、利用者様の日常の健康管理を行っている。毎週月曜日にホームを訪問し、バイタルチェック・病状など日常生活の状況報告を行い連携を図っている。24時間の連絡体制を取り、緊急時の対応も行ってもらっている。受診以降はご家族との連絡・連携を事業所職員に代わり、専属的に行う契約になっている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された場合は、面会制限があるので、ご家族・医師や担当看護師から状態を聞き、記録に残している。協力医療機関はもちろん、他病院とも管理者と看護職員が医療機関の地域連携室や担当看護師と連携し、状況の把握を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護ステーションに業務委託し、事業所の職員と連携し、利用者様の日常の健康管理を行っている。また利用者の急変時・重度化した場合の対応や、その際の医療機関やご家族との連絡・連携を事業所職員に代わり、専属的に行う契約になっている。職員からのケアの相談にもアドバイスをもらっている。	重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に重度化について説明し同意を得ている。利用者の状況変化や重度化した場合は、その都度説明し、家族と話し合いをしている。事業所としては、看取りをしていないので、一定期間、訪問看護師の協力を得て医療機関へ移転している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した場合は、訪問看護と連携し、救急車の要請を基本的な対応としている。利用者様の変調を早期に発見し、重度化する前に医療機関の受診を行っている。職員のほとんどが、病院及び介護事業所の経験者で、初期対応は習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯と夜勤帯を想定した消火・避難訓練を年2回（5月・11月）実施している。大規模災害を想定した避難訓練も行っている。利用者様の状況に合わせた避難方法が習得されている。実際の災害時には当ホームが避難所になることも想定して、飲料水や食料の備蓄品の確認も毎年行っている。	年に2回、昼夜想定での消火・避難訓練を行っている。避難の非常口を明示しているが、車いす利用者が多いので避難がスムーズに安全にできる方法を検討している。夜間帯は、1人勤務であり、地域住民の協力体制も課題としている。避難経路や避難場所を確保している。緊急通報装置の点検やスプリンクラーの点検を行っている。備蓄は飲料水・食料品・レトルト食品等があり、カセットコンロも用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様を介護の相手と捉えず、人生の先輩として接し、お一人お一人の話を聞き、尊厳を尊重している。勉強会や研修会等で、認識の習得は行われている。マニュアルも作成し、完備している。法人全体でプライバシー・個人情報保護に関してはマニュアルを作成しており、不定期だが職員会議の議題に挙げ、意識の統一を図っている。排泄や入浴時の声かけや対応には、さりげなく声かけしたり、同性介助をおこなったり、利用者様を傷つけないように十分注意を払っている。</p>	<p>身体拘束、虐待、人権擁護、個人情報保護等、マニュアルを基に人格の尊重やプライバシーに関する研修や勉強会を実施している。理解を深めながら自分の実施しているケアを振り返るようになっている。特に気持ちを損ねる言葉や誘導、行動等、職員全員がお互いに注意するようにしている。入浴や排泄は、利用者の希望もあり、同性介護で対応している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様との関わりを通して、希望や要望を聞き出すように努め、「どうされますか？」と伺いを立てながら自己判断できるように支援している。利用者様の希望を優先し、介護・支援に反映させている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の一日のスケジュールは決まっているが、利用者様に希望を聞いて尊重している。高齢化してきているので、ゆっくりとした生活が出来るように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えの時、ご自分で判断できる方には服を選んでもらっている。起床時の整容やトイレ誘導後の衣服の整えは、自力で行うことを優先し、必ずフォロー・確認するようにしている。出かける際はご本人や家族の希望を聞いて、着るものを選んでもらっている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の栄養士が作成した献立を参考にして提供している。利用者様の要望も適宜取り入れ、特に誕生日やイベント時にはその方の好きな食べ物を聞いて季節感にも配慮したメニューを入れている。職員は、食事時に利用者様の隣に座り一緒に食べている。簡単な調理（焼きそばなど）を職員と一緒に楽しみながら作ってもらっている。	利用者の希望を聞き、旬の食材を取り入れ栄養士作成の献立を職員が調理し、季節料理や誕生日食も提供している。食事形態や糖尿病食も個別対応している。食事介助しながら一緒にテーブルで食べている。もやしの根切りや簡単な食材の下準備は職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様に合った食事量を提供し、水分補給にはお茶以外に10時には紅茶、14時には夏場はスポーツドリンク、おやつにゼリー等を提供し、飽きないように工夫している。居室にペットボトルを準備し、水分補給を行っている。脱水時には経口補水液を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがいから、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄を一人ずつ職員が付き添い、ご利用者様の尊厳を尊重しながら、磨き残しがないように徹底して実施している。うがいにはお茶を準備し、口腔内の殺菌・ウイルス感染・肺炎予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から個々の利用者様の排泄パターンを把握し、時間でトイレへの誘導を行っている。利用者様にあった排泄介護用品の検討を行っている。しかし今のところリハビリパンツを使用されている方が多い状況である。尿意、便意のある方は、ご本人の意思を優先し、失敗しないように自立に向けて支援している。失敗したときはさりげなく処理している。	排泄チェック表から個別にパターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。希望でポータブルトイレを使用している利用者もいる。布パンツへ移行した事例もある。オムツの選択にも気配りしている。利用者ができることは、声掛けしながら自立を目指している。転倒に十分配慮し、安全なケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食で牛乳を提供し、ご飯をさつまいもご飯にしている。朝食後にはトイレ誘導し、排便の習慣を促している。必要に応じて腹部マッサージを実施している。食事には野菜を中心として繊維質のものを提供している。また体操やレクリエーション等の運動も取り入れ、下剤に頼らない便秘予防を心がけている。排便があるまで注意深く観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回、午後の入浴を基本に行っているが、利用者様の希望に沿っている。利用者様がゆっくりと入浴を楽しめるように浴槽に入られる方は時間をかけて支援している。便失禁された時のシャワー浴や入浴日以外の足浴も実施している。入浴拒否のある方については無理強いせず時間を置いたり、声かけを工夫している。	入浴は週3回、午後を目安に行っているが、午前中でも柔軟に支援している。浴槽にゆっくり入ったり、シャワー浴・足浴を好む等、個別支援をしている。入浴を拒む場合は、介助者を変えたり、時間をずらしたり声かけに工夫して、入浴を楽しめるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜中よく眠れるように日中の活動量を多くしている。食後は横になりたい方、起きて過ごしたい方など希望に沿って対応している。就寝時間は個々に合わせて就寝してもらっている。眠れない方には夜勤者とお話をしたり、利用者様が希望される可能な範囲の飲食をしてもらい、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬のみを与えている。投薬に変更がある場合は、職員間で確実に申し送りが行われ、看護職員からの説明も実施される。薬の内容に関してはお薬手帳や薬状から、効能、副作用等も確認している。与薬時は薬袋に書かれている名前と飲む時間を必ず確認し、確実に全部飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物時に利用者様の食べたい物の希望を聞き、買ってくるようにしている。グランドゴルフ大会に参加されていた方がいたが、感染症予防のため、現在は開催されていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>感染症予防の為、外出・外食・外泊は中止している。病院受診後に自宅周辺をドライブしたり、ホーム近隣を散歩している。</p>	<p>コロナ感染防止の為、外出支援は自粛しており、事業所の敷地にある菜園周辺や近隣の散歩で気分転換を図っている。医療機関受診後に車でドライブしたり買い物を支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時にご家族と相談の上、原則利用者様は現金を持たないようにしている。個人購入等に関しては、事業所が仮払いしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望に応じて、電話や手紙の支援は出来ている。携帯電話を持ってきている方もいらっしゃる。毎年、ご家族への年賀状は書いてもっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室、共有スペース共にゆとりある空間を設けてあり、利用者様の歩行や行動の支障となるものは出来る限り置かないようにしている。日当たりのいいリビングでは陽光を感じ、季節ごとに植栽を植え替え、季節を感じてもらえるように工夫している。</p>	<p>リビングは広く天井も高く明るく開放的である。キッチンも対面式である。季節に応じた作品を全員で作成し、壁に掲示している。リビングで過ごす利用者が多く、一人で過ごせる時間を確保し、トラブルが起こらないようにしている。ソファで寝ている時もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングが広く、利用者様が一同に会するスペースが確保されている。ホールも余裕のあるスペースが確保されており、職員の見守りの下、一人になれる空間がある。全ての居室がホールに面しており、居室で過ごす場合も安全は確保されている。レクリエーションやテレビ観賞など皆さんで集まる時間も作り、一人の時間も持ってもらい大切にしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は電動ベッドや洗面台・クローゼットが備えられ、寝具は毛布以外はリースで清潔が保たれている。利用者様が在宅時に使用してらっしゃった馴染みのタンスを持ち込んでいます。ご家族の写真や飾り方もおり、利用者様とご家族の思いが漂う居室の利用を支援している。</p>	<p>居室は、電動ベッド・洗面台・クローゼット・エアコンを設置している。寝具は毛布以外はリースである。利用者持ち込みは、タンス・テレビ・家族写真・ラジオカセット・ぬいぐるみ等があり、本人が居心地よく過ごせる様に配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>支援や介助を強化しつつ、その方のできる事を見つけ「お手伝いをお願いします」と声かけし、職員と一緒に簡単な作業を行ってもらっている。安全面を考慮し、座位での作業（おしぼり巻き、洗濯物たたみ、ちり箱作り）などを行ってもらっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない